九月盡

[illegible]

右東光院殿嵯峨記以一本及扶桑拾葉集校合

唐崎松記　　前胡法親王

叡山乃ふもとに世をいとはんとて退隠し侍りし時の事なり侍りしの道にをもむき
岡の流を鹿の[illegible]なり侍りしの道にをもむき
下に堀をほりめぐらし[illegible]
也乃出ぬるなの命により山門東叡の事ありて[illegible]
西宗も日く年くにいやましてなりて久しく乃日吉の[illegible]
昔のほとりにて[illegible]
らさぬの神[illegible]
[illegible]

松かぜや乃大風にあへまでて手さへぎりも得ず侍
りし御幸の神感もこと絶やかゆへに世にも此松あへるまこと
古に新庄駿河守直頼とて文武世にすぐれ常もと
乃つゝし侍るをあるに人ありされ人やや大津乃御城
郭をあつ手短くまゐらしなり手はかりに松菴東玉雑
齋真壽とゝあふかうりあるこゝ乃かたちれ弁しる見ゆるくね
うつましゝ彼松乃事よるおくやみゆくすゑ乃繁栄して
栽へやとふあ家年の中に此にいひて風情ある松をとか
そうくあつ孫らまゐしにかゝりして何をかまでみえてまで
めぐるもり皆ゆひいへるにも宮ふかくしけきハ此木の

人もめとて他にあさハちとく川し　于時天正十九辛卯年
秋のすゑ人もかきとかへしみなさへしてまゐらり
中によめる
松乃はいく千年も人し幸ある乃松をふりつ名にさかせい
とゞ花さゝあ松ハゆくにもなく生まゝつきて春なつめ梢も
ゆる一しかな乃みとりも同じくちとせの孫さへいちとふ事
神息きかりて元さ侍るを文武人は松の来由を如何にも
とへそその大津宮天智天皇御宇あゆみ乃御門とうやよみつ
いるまうりて大津の粟津茶解あるふれして今の三井寺も
彼御門乃勅願所として清水のながれ之會乃曉よろく

あるいまだ御製の物馬なりあるを天皇かくのごとく行幸御ましまして沖津ちと漁舟二艘さわぎして来るに門司を過つるまでをのうしを歳賢あまい二人名あり秘乃書に不載 御門部まくりて篇も神変奇特現ずしてかくうあふ

大体乃みつの浜へをうちよりよりくるふ浪の行名をもて

とて船をいつちいはくんとも見ん則神能みて山をの御初と皆船星を積うとてあり祭と今も祭れり和ふ和ふ乃御供なとそるふ事も多しかりとあるとて法ふくにさるくの事あまを

くくくくまれたかとて今此御代と大津いくくあ変あるくくあれ船もをうふうう都乃あるくくあ政道をくくて民の和ふと船を朝ふくくいるいうをくくた

あるをくくひ上ハ下をあくくまみ下いかくをあふくて

乃ふくくを和ふなふ出代と生まあふくを乃海ふくを

えをくくむ行くくて國家乃をくくかくくる事えあるふ

きにをを

右唐崎松記以扶桑拾葉集校合